

指導技術		観点別の授業改善の視点			
教師の指導 (授業規律・指導技術・発問・板書・個別指導・ノート指導等)		関心・意欲・態度を向上させる手だて	「音楽表現の創意工夫」を向上させるための手だて	「音楽表現の技能」を向上させるための手だて	「鑑賞の能力」を向上させるための手だて
導入	<ul style="list-style-type: none"> ・チャイム着席・机上の準備、欠席の確認 ・忘れ物点検をし、学習規律を確立する。 ・本時の学習内容を自己評価カードに書いて、明確にする。 ・本時のねらい、課題を明確にし、個人の授業目標を立てさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の学習内容を確認する。 ・本時のねらいを確認し、意識をもてるように学習内容を説明する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の練習成果を確認し、曲想を考えて、楽曲にふさわしい音楽表現を感じ取り、表現を工夫するような指導を行う。 ・本時のねらいを意識させ、次のステップの見通しをもたせるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の課題確認カードの活用及び録音したものを鑑賞することにより、課題意識をもたせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師の説明、助言をよく聞き、課題意識をもたせる。
展開	<ul style="list-style-type: none"> ・指使い等の基礎練習をする。 ・教師による実演や、模範のCD鑑賞により、ポイントを説明し、確認させる。 ・課題部分を各自が習得できるように、個別練習の時に、強弱やリズムを個々に確認し、技能の向上を図る。 ・理解や技術の習得が早い生徒には、苦手な生徒に助言することで、復習ができるようにし、さらに発展的な課題を出すことで、技能の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が目的意識をもって、自主的・積極的に活動できるように声掛けをし、意欲をもたせる。 ・机間指導やグループ毎にやるピアノの周りでの練習の時には、場所をローテーションして、皆に声掛けできるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・模範演奏を聴き、表現の豊かさや美しさを感じ取り、自らの演奏をより豊かな表現へと高めるようにさせる。 ・曲想に合った息の量やタンギング、リズムやブレーズのまとまり、強弱等を繰り返し確認しながら学習させることで、表現を工夫する力を向上させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・正しい運指を覚えるように反復練習をさせる。 ・理解が早く、技能が優れている生徒には、発展的な課題を追加したり、他の生徒に助言できるように指導することで、向上を図らせる。 ・実技テストを実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・曲調や強弱の変化を感じながら、模範CDを聴き取ったり、自分たちの演奏を録音したものと模範のものと聞き比べて、改善点を見つけ、発表させることにより、聴覚的な能力の育成を図る。
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・自己評価し、本時の目標が達成できたか確認する。 ・本時の感想を述べ、ポイントを確認し、次回の授業の内容の予告をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己評価や相互評価を取り入れ、本時の学習を振り返らせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・演奏に関わる表現で工夫した点などを振り返り、より良い表現の工夫が出来るように考えさせる。 ・授業内容を再確認し、次時の学習につなげる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題確認カードの活用により、課題の技能を習得できたかを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・楽曲にふさわしい正しい運指やリズム・強弱等の構成要素を聴き取り、自分の演奏に生かせるよう聴覚的能力を育成する。